

同窓會報

第46号
令和3年1月

創立120周年記念特別号

つなぐ、
120年の
その先へ。



怯まない、挫けない、立ち止まらない。
至誠尽くす、真剣貫く、つなぎ続ける。



静岡県立榛原高等学校同窓会

〒421-0422 静岡県牧之原市静波850 電話・FAX 0548-22-7755 ホームページ <http://www.haibara-ob.jp> E-mail haibara-ob@mail.wbs.ne.jp

次回総会は 2021年7月11日(日)に開催します

実行委員長(同窓会長)挨拶 木下 勝朗 (高17)



静岡県立榛原高等学校創立120周年を、皆様と共に喜び、お祝いしたいと思ひます。

120年という長い歴史を元に、現在があるわけですが、明治・大正・昭和・平成・令和と積み重ねて来た道には感慨深いものがあります。私自身卒業して50余年が経過しましたが、同窓会長として多くの人達とお会いをし交流を深めますと、卒業生の皆様のそれぞれの人生を見る事ができます。榛原高校での短い3年間ではありませんが、青春の一番多感な時を過ごす高校時代は、時に思い出深く、また、一統統いていく交流ではないかと思ひます。本来であれば、多くの来賓をご招待し多くの人達とお祝いしたい訳ですが、今年には新型コロナウイルスの蔓延で社会生活が一変しています。生活様式を変えながら生活しています。生徒の皆様も6月から本来の

学生生活が出来た様になりましたが、3年生はもう追い込みに入り、1・2年生は学年の仕上げに入っています。今後、状況の変化もあらうと思ひますが、自分の目標に向け進んでいってもらいたいと思ひます。本日を新たなスタートとして出発していただきたいと思ひます。

120周年記念事業は、記念式典部会・ICT整備広報部会・生活館建設部会・記念誌部会の四部会を立ち上げ、議論を重ねながら本日を迎えました。

進取館が完成し、教室にプロジェクターを設置し、インターネット環境の整備を行い、情報の共有ができるようになりました。これを生かし、教育活動が更に充実することを願っています。

歴史や過去は振り返るものですが、今後も榛原高校の歴史を大切にし、生徒の皆様、学校関係の皆様と共に、常に前向き、前進して行きたいと思ひます。そして、榛原高校が榛南の地において、日本・世界で活躍する人材を輩出すべく、これからもさらに飛躍する教育活動が展開されることを願っています。

最後に、本日の為にご尽力下さった学校・後援会・PTAそして同窓会の皆様にご心よりお礼申し上げますと共に、皆様方の益々の御活躍、ご健康をお祈りして挨拶いたします。



実行委員席



司会進行 田形副校長



開会の辞 松本PTA会長



閉会の辞 中野後援会長

創立120周年に寄せて

校長 渡邊 昇司



1900年に県内5番目の学校として設立され、今年で創立120周年を迎えることとなりました。その節目に校長として立ち会うことができ、光栄に感じております。

赴任した平成29年度に、同窓会を中心に、後援会、PTA、定時制教育振興会と学校によって、「創立120周年記念事業実行委員会」が発足されました。委員会は、さらに、記念式典部会、ICT整備部会、生活館建設部会、記念誌部会の4つの部会を置き、部会ごとに活動を行っていたいただきました。

ICT環境の整備として平成29年度に普通教室と特別教室に設置していた24台の黒板投影型のプロジェクトターは、分かりやすい授業実践になくしてはならない存在となっております。今ではスマホ等の通信機器を利用したの反転学習も行えるようになりました。生活館建設につきましては、120周年

記念式典の開催に間に合うようにと建設が始まり、めでたく開館式も執り行われ、いよいよ生徒が主体となって活用されることとなりました。学習館では自学自習し、この新しい生活館「進取館」では部活動等の合宿施設としての活用はもとより、対話による課題解決型の学習が行えるようICT機器の整備も進められ生徒は協働的な学びを深めていくことと思えます。

記念誌の発行につきましては、100周年を記念して発刊された『榛原高校百年史』から20年、また、110周年から10年が経過しております。今後迎えることになる150周年や200周年を見据えて、資料収集の方法や各種資料の保管等についても貴重となる『創立120周年記念誌』が発刊されました。手に取ってお読みいただける幸いです。

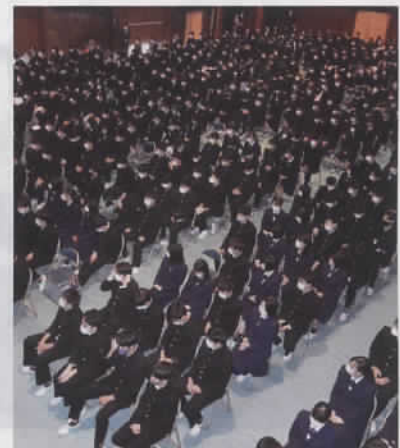
最後に、記念式典ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から県の基準を満たすよう、式典を中止し、本校卒業生でパラリンピック車椅子テニス選手である堂森佳南子様を講師に迎え、記念講演会を行いました。

今後この榛南地区の拠点高校として、諸先輩方に続く地域や世界で活躍するリーダーの育成に努力して参ります。

最後になりますが、同窓会のより一層の御繁栄と、会員の皆様方の益々の御活躍を祈念申し上げます。



実行委員会



生徒代表のことば

生徒代表 大石 拓実(2年)



このたび、私たちの榛原高校は創立120周年を迎えました。輝かしい伝統のある榛原高校を讃える今日という日を、在校生として立ち会えることを大変誇りに思っています。

本来ならば在校生のみならず、卒業された同窓会の先輩方、地域の方々と共に盛大にお祝いすることが通例となっていました。しかしながら今年度は全世界において新型コロナウイルス感染症が流行し、ありとあらゆる行事に多大な影響を与えました。

私たちも新入学、新学年を迎える大切な時期に長期間休校の措置が取られ、自宅学習となり、部活動も思うように再開出来ませんでした。

また、日頃の努力と成果を披露できるであろう各種大会・発表会・各種イベントも、その大半が中止や形式を変え縮小となつてしまいました。悔しい思いをされた三年生の先輩方も沢山いらっしやると思います。当たり前の事が当たり前でない

くなつてしまったこの年を、私たちは一生忘れることはないでしょう。

榛原高校は、かつて「榛原郡」が存在していた頃より、西は御前崎・浜岡地区、東は大井川を超え志太地区、北は本川根地区まで広くカバーする地域の学校として永く親しまれてきました。学業にスポーツに高い志を持った生徒が集まり切磋琢磨し卒業後は多岐に渡る分野で活躍しています。今、私たちが榛高生として自信と誇りを持って日々学校生活を送る事ができるのも、この「榛原高校」というブランドを築き上げ、長い間守つてきてくださった先輩方、その時々々の教職員の方々、地域の方々の努力の賜物だと思えます。

世の中には色々なブランドがあります。新興勢力として急拡大した歴史の浅い物や古くから続く伝統的な物、中には廃れてしまったブランドも存在します。私たちは、先輩方から受け継いだ榛原高校というブランドにさらに一層磨きをかけ、次の担い手に継承していかねければなりません。

今日のようなコロナ禍においても、学業に集中出来るように学校生活が維持され、この記念の式を執り行う事ができるのも私たちの先輩方はじめ沢山の人のおかげです。

榛原高校の校訓である「至誠真剣」の精神にあるように、周りの方々への感謝を常に忘れず、物事に対してひたむきに取組むことを誓い、生徒代表の言葉に代えさせていただきます。



講演会後の交流会



記念講演

講師 堂森 佳南子氏（高45）



△講師プロフィール▽

車椅子テニスプレーヤー 吉田町出身

10代の頃、難病による脊髄炎を患い両下肢に麻痺が残り車いす生活に。高校時代に車椅子テニスを始める。静岡県立大学卒業後一度就職。本格的にテニスプレーヤーとして活動するため2005年に退職。その後、30歳からの挑戦で、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオパラリンピックに3大会連続出場。日本オラクル（株）所属。
※同窓会報第34号「北京パラリンピックで大活躍」として紹介されている。

演題 「未来を切り拓く現実との向き合い方」

△講演要旨▽

今日は講演テーマ「未来を切り拓く現実との向き合い方」ということで、今まで自分の経験や感じたこと、思ったことをお話したいと思えます。

これまでの体験報告として、国枝慎吾選手や上地結衣選手との交流、3大会連続パラリンピック出場、日本代表として9年間連続でワールドシングルカップに出場、2014年アジアパラリンピックで上地結衣選手とペアを組んで銀メダル取得、1年の半分以上海外遠征で多くの国籍の選手と対戦していること等を紹介する。
ある日突然会歩けなくなる1年間の辛い入院生活

中2の4月に学校である日、突然歩けなくなりました。その日に救急車で病院へ運ばれて静岡市内の難病の専門の病院に入院しました。この先どうなるのか、学校に戻れるのか、普通の生活ができるのか、とても不安でした。私は復学できる日のために中学2年の1年間はベッドで独学、リハビリもやりました。初めて一人で靴下をはけるようになった時の喜びは今でも覚えています。そして今自分ができることを少しずつ増やして、自信を付けていった気がします。

車椅子での学校生活

中学3年の4月、中学に復学します。中学は私の知っている友達がいいて、助けてくれたので、すぐに学校にも慣れ、修学旅行も京都に行きました。私はソフトボール部

だったので、夏の最後の大会を見に行くことができ、とても友だちの存在が大きかったです。

高校受験では、榛高以外の公立、私立高校には全て入学を断られてしまいました。理由は、前例がなく車椅子の生徒を受け入れたことにはないということです。当時は特別支援学校がなかったから静岡市内の施設に入るように言われました。私は人格を否定されたように思いました。私は社会に居ない方がいいのかなあ、じゃまな人間なのかなあとその時思いました。

榛高生活

榛原高校ではトイレや段差を改善し、私の教室だけ1階にし、先生方や友達にもとても親切にしてもらい、榛高での生活はとても感謝しています。しかし、私の歩ける時代を知っている人はとても少なく、友達をなかなか作ることが出来ませんでした。もっと友達を増やして楽しい高校生活を送りたかったと後悔しています。

色々なスポーツにチャレンジする

私は県内の大学に入学し一人暮らしをして車の免許を取り、自由になりました。体を動かすことが好きだったので、チェアスキーや車椅子バスケット等いろんなスポーツに挑戦しました。そうすることで全国に友達ができて、自分の世界、視野が広がったなあと思いました。就職活動では、スポーツもできる環境もある関東で会社を探しました。そして何と一流企業に入ることが出来ました。

関東で就職する

会社にバリアフリーの寮があり入ります。やっと経済的に自立が出来て生活しやすい設備や環境になり、いろいろな意味で自由になれるような気がしました。そして、大好きなスポーツができる環境がある。本当にプライベートが充実していました。

会社では事務仕事をやっていたのですが、少し苦手でした。仕事をだんだん任せられていくと会社を休みにくなくなっていました。自分の生きがいは何だろうと悩み、そんな中で、親や周りの人には反対されたのですが、テニスをしたい、強い選手と試合がしたい、パラリンピックを目指そうと決心して当時勤めていた公務員をやめました。それから海外遠征をスタートし、遠征しながら日本でアルバイト生活を5年間しました。

3大会連続のパラリンピック

テニスをもっとやりたい、強い選手と試合がしたい、パラリンピックを目指そうと決心して、海外遠征をして3大会でパラリンピックに出場することが出来ました。日の丸は目標ではなかったけれど、やりたいことをやっていたら、日の丸を背負ってしまいました。もちろんパラリンピックに出場できたのはとても光栄であり嬉しかったんですが、私にとっては初めて好きなこと、やりたいことを見つけて、目標をもって臨んだことの喜びの方が大きかったです。

好きなことからの広がり

海外遠征中は多くの国に行き、多くの人に会い、多様な文化に触れ、自分の好きなことも経験することが出来ました。テニスを通じて、興味のある事、自分は何が好きなのか、そんな小さなことに気付きました。学生時代には好きな仕事が出来れば良いなど思っていました。今パラアスリート、車椅子テニスプレイヤーという肩書を持つことができ、あの時の思いが現実になりました。

以上が、これまでの私の話になります。では最後にまとめになりますが・・・自分のやりたいことを見つけやってみる

とりあえずやってみてください。挑戦してください。例えば、私は入院中は、靴下をはけるようになりました。勉強もしました。その時私は自分が生きることを始めました。そして、就職してテニスが見つかって、海外遠征をして挑戦しました。

入院中は自分でできることからやってみて、そしてテニスを始めて、今は推しメンにハマりインスタを始めて、こうして講演ですとか、自分の思いや考えを発信して、たくさんの人を勇気づけたいと思うようになりました。

時代によって常識は変わる

断捨離の「こんまり」こと、片付けインストラクターの近藤麻理恵さん。彼女は学生時代には掃除好きで、その趣味が高じて今はアメリカで片付けコンサルタントをやっています。と言うことは、今ない仕事が出来るとのことです。

皆さんも将来はどんなものがあるでしょうか。私は高校入試の時、就活をしている時、前例がないと、各校の校長や人事スタッフに言われました。もし私が前例がないという理由で高校に行けなかったら、今の自分はないのです。

世間の評価へ自分らしさ

私は今、パラアスリートという肩書があります。でも以前は会社の上司には「有休ばかりとっているね」と毎日のように言われましたが、今は「パラアスリートってすごいですね」と言われます。自分はずつと自分のやりたいこと、同じことをやっているだけなのに、世間は時代によっていうことが180度違います。だからこそ、自分らしさを大切に。物事に間違いや正解はありません。

やりたいことはいくつあってもよい

今終身雇用が終わり副業が許される時代です。私の所属するオラクルも副業は許されています。逆に禁止すると優秀な人材はいなくなると人事の方が言っていました。今は多様さが求められる時代だと思えます。

人それぞれで楽しみ方があると思います。是非、皆さんも自分だけの生き方を見つけて挑戦して欲しいと思います。

これで私お話は終わりですが、今後皆さんが生活する上で参考になればいいなと思っています。今日はお話を聞いてもらってありがとうございました。

記念講演の感想

◆『百二十年』これだけの歴史を築くのは決して容易なことではありません。私は、榛原高校百二十年という大きな節目に在校生として参加できたことを誇りに思っています。

本校の卒業生であり、車椅子テニスプレイヤーの堂森さんからは、十代で車椅子生活になってから世界でパラアスリートとして活躍するまでのお話を伺いました。私は、お話の中で「変化する世間の評価よりも自分らしさを大切に」という言葉が強く心に残りました。その言葉で、もっと自分自身の声を大切にしていきたいと思います。

今まで成績や進路の不安で見えていなかった自分に対する可能性や将来への期待にも目を向けられるようになったと感じています。

様々な挑戦(スタート)がある中で、これからは続いていく榛原高校の歴史の一部分を担う者として、卒業生たちが繋げてきたものを次の世代に繋げられるような行いをしていきたいです。

1年 澤島さくら

◆今日の記念講演を聞いて、何事も諦めずにチャレンジする事が一番大事だなと感じました。私は今硬式テニス部に所属しております。部活をやっている中で、周りは軟式テニスを中学からやっていたり上手な子ばかりで私は勝てないんだなと思ったり、勉強とうまく両立できない時期もありました。しかし、堂森さんのお話を聞いて、毎日不安な事はばかりでそれが続いて、今できる事を増やして、少しずつ自信をつけながら、色々な事にチャレンジして視野を広げられるようになりたいなと思いました。堂森さんを囲む会では、友達を支えが高校時代の一番の支えだということでしたので、今仲の良い友達、これから出会う友達をずつと大切にしていきたいと思いました。

2年 杉本 美海

◆堂森さんは、これからは多様性が求められる時代だと言っていました。私はいろんな人にそう言われるたび、「できることを増やさない」とか「人のため、社会のために役立つ人間にならない」と焦って苦しくなっていました。でも、堂森さんの講演を聞いて、多様性を身につけるためには、様々なことに挑戦して、好きなことを増やしていくことが大切という考えに変わりました。お父さんに「下半身が動かないのだから、おとなしく生きる。」と言われても、好きなことを真つ直ぐ貫いた堂森さんはとてもいきいきしていて、私も堂森さんのようになりたいと思いました。

「時代によって常識は変わる」と言う堂森さんの言葉を聞いて、これから社会の常識が、周りに決められた型に自分を合わせるのではなく、自分の好きなことを自由に表現できるように変わって欲しい、また変えていきたいと思います。

3年 長野 香穂

120周年記念事業の概要

◆カニジウス演奏会

2019年（令和元年）10月4日（金）、120周年記念プレ事業として、ドイツカニジウス校室内楽団交流演奏会が行われた。カニジウス校は1925年にイエズス会によって創立されたベルリンのギムナジウム（日本では中高一貫校に相当する中等教育機関）で、サークル活動の形で行っているオーケストラがドイツ国内で高い評価を受けている。2008年（平成20年）と2013年（平成25年）にも演奏旅行で来日し各地で演奏会を行った。今回は第16回卒業生の川森紀美代様（生涯教育センター「昇学園経営」の紹介により榛原高校での演奏会が企画され、本校講堂を会場に、同校の生徒29名男6女23）による、約70分の演奏会と、本校生徒との交流会が行われた。

演奏曲目

- テレマン トランペット協奏曲二短調
- ドヴォルザーク 弦楽セレナーデ作品22
- コダーイ ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲
- 編成 チェロ5 フルートの1 ホルン1
- ピオラ6 ヴァイオリン16



演奏会の様子



交流会で歌を披露する本校合唱部の生徒

◆ICTの環境整備

高等学校の授業においては、2010年代前半から急速なグローバル化や少子高齢化に代表される社会の変化に対応した「生きる力」を育むための新しい授業の在り方が求められてきている。2018年の学習指導要領の中では「主体的・対話的で深い学び」という表現で、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善が掲げられるようになった。効果的な授業実践のために県内各校でもICT機器の整備も進められ、新しい時代の教育を実現するために、榛原高校においても環境整備を進めている。

①プロジェクト設置

2017年（平成29年）9月、PTA・学校後援会の支援の下、教室に授業用プロジェクトを設置し、授業を中心に幅広く活用されている。

・機種等 エプソン EB-685

WT（プロジェクト）

ELPCB02（電子黒板機能付

キインターフェイス）

パソコンの接続だけでなく、USB

Bを用いて写真データの投影が可能。

将来の校内ネットワーク構築に対応してWi-Fi接続も可能。

②生活館のICT環境

1階の多目的ホールに、プロジェクトとモニター2台で遠隔会議システムを構築、対話的な課外学習ができる空間及び設備を整備していく予定。



生活館でのオンライン授業



プロジェクターを用いた生徒のプレゼンテーション

120周年記念事業の概要

◆榛原高校「生活館」の建設

2018年(平成30年)6月の第2回創立120周年記念事業実行委員会において、記念事業として、生活館を体育館東側に建設することが決定された。その後、県教育委員会との執行協議の上、2019年(令和元年)8月に生活館建設工事の承諾を受けた。2020年1月开工、11月14日(土)に竣工式・引き渡し式が行われた。

(1)コンセプト

創立120周年に向けて、校訓である「至誠真剣」の下、自律的な生活習慣を身につけるとともに、創造力、発信力、コミュニケーション能力を伸ばし、確かな学力とたくましい心身の調和を身につけ、将来の地域リーダーを目指すための学びの場とする。

(2)目的

部活動等の合宿に活用できる宿泊機能を持たせる一方で、課外活動等においてICTを活用した主体的・対話的で深い学びが実践できるセミナーハウス機能を有する施設とし、学習館と並ぶ本校を特徴づける教育施設とする。

(3)名称『進取館』

校歌にも歌われる『進取』とは、慣習にとらわれることなく、失敗を恐れずに積極的に新しいものに挑戦することである。幾多の困難を乗り越え未来を切り拓いていった先輩方の遺志を受け継ぎ、後輩たちに『進取の精神』を持ち続けてほしいという思いを込めて『進取館』とする。



大石千世氏揮毫による「進取」



引き渡し式



生活館2Fバルコニーより

同窓会通常総会報告

今年度の同窓会総会は7月19日、グランディエール・ブクトーカイに於いて開催される予定でありました。しかし、周知のように新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たず、止むなく中止の判断に至りました。何十年ぶりかの再会を楽しみにして、予定を組み入れていた同窓生の皆様、そして何よりも盛会を祈念して、早くから準備されていた当番回期の皆様にとりましては誠に残念なことでありました。コロナが原因だから・・・という一言で済まされない無念さが残りますが、ここは来年の総会が盛会であることを期待したいと思います。

総会決議につきましては、想定外の事態が起きたということから、従来の一堂に会しての審議方法でなく、常任理事・理事・支部長会の書面審議の議決をもって、総会決議に替えさせていただくという方法をとらせていただきました。そして去る6月、常任理事・理事・支部長の皆様に総会資料をお送りし、表決書に記入していただいた上での返信をお願いいたしました。本来ならば、会員諸兄の闊達な議論による十分な審議を重ねて、議決をしていただくことが本筋であるかと思いますが、現状を鑑みご理解いただきますよう、お願いいたします。尚、書面決議の結果につきましては以下を参照願います。

令和2年度常任理事・理事・支部長会書面議決の結果について

常任理事・理事・支部長の皆様にお諮りしました常任理事・理事・支部長会（書面による議決）の各議案における結果は以下の通りです。

266名発送中93名の方が議決権行使

第1号議案	令和元年度事業報告	賛成93、反対0
第2号議案	令和元年度決算報告及び会計監査報告	賛成93、反対0
第3号議案	令和2年度事業計画	賛成93、反対0
第4号議案	令和2年度予算案	賛成92、反対1

以上すべての議案について多数の賛成をもって可決いたしました。

<ご意見等>

- ◎本部総会中止・各支部総会中止によって、総会費や支部総会総会出席の為の旅費等は減額される必要がある。（4号議案への反対意見）
- ◎大変な時代になってしまいましたが、不可能なことはないことを信じて、力を合わせて邁進していきましょう。

ご協力いただきありがとうございました。

◆ 書籍寄贈者御名前（敬称略） ◆

会報45号以降の寄贈（詳しくはホームページをご覧ください）

- ・塚本 昭一(高5) 改訂版 続・悠久の真昂(編著)
- ・笙鼓 七波(高22) 風叙音 Vol. 32[春]～Vol. 風叙音34[秋](編)

令和元年度 決算及び事業報告

単位：円

【一般会計決算】

収入総額	8,987,727
支出総額	8,110,352
差引残額	877,375 (翌年度へ繰越)

(収入の部)

科目	予算現額	決算額	比較増減	摘要
前年度繰越金	877,694	877,694	0	
入会金	4,700,000	4,700,000	0	20,000円×235名
總會会費	1,800,000	1,410,000	△390,000	6,000円×235名
寄附金より	2,120,000	2,000,000	△120,000	寄附金会計より繰入
諸収入	100	33	△67	預金利息
合計	9,497,794	8,987,727	△510,067	

(支出の部)

科目	予算現額	決算額	比較増減	摘要
1 会議費	2,590,000	2,106,089	483,911	
總會会費	2,430,000	1,949,600	480,400	会場費、案内状印刷・発送代他
役員会費	160,000	156,489	3,511	役員・理事・支部長会他諸会会議費等
2 事業費	4,780,000	4,382,660	397,340	
会報費	3,150,000	3,048,160	101,840	会報印刷・発送他
記念品費	280,000	270,787	9,213	卒業証書ホルダー
奨励費	700,000	518,000	182,000	部活動上位大会参加奨励金、備品補助
教育環境整備費	600,000	500,000	100,000	120周年記念事業準備金
定時制教育振興費	50,000	45,713	4,287	ラミネーター、フィルム
3 支部助成金	650,000	508,500	141,500	支部総会等助成
4 事務費	1,080,000	901,183	178,817	
消耗品費	60,000	20,896	39,104	事務用品他
備品費	30,000	0	30,000	
コンピューター関係費	180,000	124,740	55,260	ホームページ管理費、ADSL他
通信費	150,000	111,656	38,344	電話料、郵便料
渉外費	30,000	28,000	2,000	同窓生活動後援
給与	630,000	615,891	14,109	事務補助員給与
5 慶弔費	50,000	2,570	47,430	弔電
6 旅費	270,000	206,560	63,440	支部総会等参加旅費
7 水道光熱費	3,000	2,790	210	事務局電気・水道料
8 予備費	74,794	0	74,794	
合計	9,497,794	8,110,352	1,387,442	

科目間の流用を認める

令和2年3月31日 静岡県立榛原高等学校 同窓会長 木下勝朗 (印影省略)

令和2年4月16日 令和元年度決算を監査した結果、妥当かつ正確であることを認め報告致します。

監事 久保田昌幸 山岡久子 良知義弘 (印影省略)

【名簿会計収支報告】

収入総額	14,195,597
支出総額	0
差引残額	14,195,597
(収入の部)	
前年度繰越金	14,193,981
(定期:6,380,244 普通:7,813,737)	
名簿データ管理費	705,000
(H30年度卒業生3,000円×235名)	
名簿代金(4,000円×4冊)	16,000
雑収入(預金利息)	616
合計	14,915,597
(支出の部)	
支出金	0
合計	0

【特別会計収支報告】

収入総額	14,691,391
支出総額	0
差引残額	14,691,391
(収入の部)	
前年度繰越金	14,691,264
雑収入(預金利息)	127
合計	14,691,391
(支出の部)	
支出金	0
合計	0

【寄附金会計収支報告】

収入総額	6,281,736
支出総額	2,047,145
差引残額	4,234,591
(収入の部)	
前年度繰越金	4,567,852
寄附金	1,713,884
合計	6,281,736
(支出の部)	
振込料負担	47,145
一般会計へ繰り出し	2,000,000
合計	2,047,145

【令和元年度 事業報告】

4月4日 入学式 (全日制226名・定時制14名、合計240名入学)

18日 平成30年度会計監査

20日 第1回当番回期打ち合わせ会

26日 第1回役員会

6月5日 第2回役員会

8日 関東支部総会 (於・上野精養軒) 木下会長・畑副会長・大石和副会長・大石幸雄顧問・石田教諭参加

15日 常任理事・理事・支部長会

15日 第2回当番回期打ち合わせ会

7月3日 第3回役員会

15日 通常総会 (於・グランディエール プケトーカイ)

26日 第4回役員会

8月24日 初倉支部総会 (於・池田や) 木下会長・辻副会長・岩堀副会長・田形副校長・川村教諭・榎林教諭参加

25日 西遠支部総会 (於・呉竹荘) 木下会長・松田副会長・山本教諭・堀教諭参加

10月2日 第5回役員会

11月3日 「第45号同窓会報」発行

8日 地頭方支部総会 (於・うおとも) 木下会長・石神副会長・辻副会長・大石副会長・鈴木副会長・下村教諭・柳澤教諭・原口教諭・西川主事参加

9日 静岡支部総会 (於・ホテルシティオ) 木下会長・岩堀副会長参加

12月6日 第6回役員会

2月5日 第7回役員会

28日 入会式 (全日制71回、定時制68回)

3月2日 卒業式 (全日制228名、定時制11名、計239名卒業)

令和2年度 予算及び事業計画

単位：円

【一般会計予算(案)】

収入総額	9,547,475
支出総額	9,547,475
差引残額	0

〈収入の部〉

科目	予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
前年度繰越金	877,375	877,694	△319	
入会金	4,720,000	4,700,000	20,000	20,000円×236名
総会会費	1,800,000	1,800,000	0	6,000円×300名
寄附金より	2,150,000	2,120,000	30,000	寄附金会計より繰り入れ
諸収入	100	100	0	預金利息等
合計	9,547,475	9,497,794	49,681	

〈支出の部〉

科目	予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 会議費	2,610,000	2,650,000	△40,000	
総会費	2,450,000	2,500,000	△50,000	会場費、案内状印刷・発送代他
役員会費	160,000	150,000	10,000	役員・理事・支部長会他諸会議費
2 事業費	4,695,000	4,780,000	△85,000	
会報費	3,200,000	3,150,000	50,000	会報印刷・発送代他
記念品費	295,000	280,000	15,000	卒業証書ホルダー
奨励費	650,000	700,000	△50,000	部活動上位大会参加奨励金、備品補助
教育環境整備費	500,000	600,000	△100,000	創立120周年記念事業
定時制教育振興費	50,000	50,000	0	
3 支部助成金	740,000	650,000	90,000	支部総会等助成
4 事務費	1,100,000	1,020,000	80,000	
消耗品費	40,000	60,000	△20,000	事務用品、来客用茶代他
備品費	30,000	30,000	0	事務局備品
コンピューター関係費	200,000	180,000	20,000	ホームページ管理費、光回線工事他
通信費	150,000	150,000	0	電話料、郵便料
渉外費	30,000	30,000	0	同窓生活動後援
給与	650,000	570,000	80,000	事務補助員給与
5 慶弔費	35,000	50,000	△15,000	香料、弔電等
6 旅費	285,000	270,000	15,000	支部総会等参加旅費
7 水道光熱費	3,000	3,000	0	事務局電気・水道料
8 予備費	79,475	74,794	4,681	
合計	9,547,476	9,497,794	49,681	

科目間の流用を認める

【令和2年度 事業計画】

- 4月7日 入学式 (全日制197名・定時制16名、合計213名入学)
- 16日 令和元年度会計監査
- 18日 第1回当番回期打ち合わせ会
- 24日 第1回役員会
- 6月3日 第2回役員会
- 13日 関東支部総会
- 20日 常任理事・理事・支部長会
- 20日 第2回当番回期打ち合わせ会
- 7月1日 第3回役員会
- 19日 通常総会 (於・グランディエール プケトーカイ)
- 31日 第4回役員会
- 8月 日 初倉支部総会
- 日 西遠支部総会
- 10月7日 第5回役員会
- 7日 静岡支部総会 (於・浮月楼)
- 14日 創立120周年記念講演会
- 日 地頭方支部総会
- 日 藤枝支部総会
- 12月2日 第6回役員会
- 1月15日 「第46号同窓会報創立120周年記念特集号」発刊
- 2月3日 第7回役員会
- 26日 入会式 (全日制72回、定時制69回)
- 27日 吉田合同支部総会 (於・片岡会館)
- 3月1日 卒業式

【名簿会計予算(案)】

収入総額	15,628,597
支出総額	0
差引残額	15,628,597
〈収入の部〉	
前年度繰越金	14,915,597
(定期:6,380,785 普通:8,534,812)	
名簿データ管理費	708,000
(R1年度卒業生分3,000×236名)	
名簿代金(4,000×1冊)	4,000
雑収入(預金利息)	1,000
合計	15,628,597

〈支出の部〉

支出金	0
合計	0

【特別会計予算(案)】

収入総額	14,691,491
支出総額	3,000,000
差引残額	11,691,491
〈収入の部〉	
前年度繰越金	14,691,391
雑収入(預金利息)	100
合計	14,691,491
〈支出の部〉	
支出金	3,000,000
合計	3,000,000

【寄附金会計予算(案)】

収入総額	6,034,591
支出総額	2,195,000
差引残額	3,839,591
〈収入の部〉	
前年度繰越金	4,234,591
寄附金	1,800,000
合計	6,034,591
〈支出の部〉	
振込料負担	45,000
一般会計へ繰出	2,150,000
合計	2,195,000

2021年 同窓会総会のお知らせ

日時 2021年7月11日(日)
総会：11時～ 懇親会：12時15分～

場所 グランディエール プケトーカイ 葵タワー
静岡市葵区紺屋町17-1 (JR静岡駅前)
☎ 054-273-5225

協力回期 高21、31、41、51、61回生の皆様
定21、31、41、51、61回生の皆様

招待回期 高15、16回生の皆様

※協力回期の皆さまにはそれぞれの幹事から案内が届けられます。
※協力回期以外の方々の参加も大歓迎です。

支部活動報告

◆地頭方支部

支部長 鈴木 徹(高29)



〔活発化する支部活動〕

教育関係施設の増強・お茶振興の話、静岡空港の中国便が二倍となりスズキ自動車も増収で雇用も増大したという「上げ潮」で景気の良い話でした。

初当選から二年半が経過し、市長としての経験と実績が貫禄と人望を高め、順風満帆のオーラを感じましたが、この時は「新型コロナウイルス」を予想できた人は誰もいませんでした。



令和元年度・第15回の地頭方支部総会は、11月8日に「うおとも」にて開催し、多数の参加を賜り(総勢40人)大変活気に満ちた集会となりました。

記念講演は、牧之原市長の杉本基久様による「これからの牧之原市の展望」と題して話して頂きました。

まずは直近の台風19号災害から始まり、県外へ行った卒業生の37%が帰らない(約一万人)事では県内大学の受け皿が足りないことと訴え、医者が居ない県で全国ワースト五位となった事。市の第二次総合計画では、高台開発・子育て支援・移住定住奨励金・乗合タクシー・

ケによる熱唱や、大橋利奈子さん(高40)のピアノ演奏による校歌斉唱とフルート演奏等、盛況のうちに幕を閉じることができました。

尚、令和2年度の支部総会は、新型コロナウイルスの影響で未定です。

◆静岡支部

支部長 永益 厚司(高19)



私が榛原高校出身であることをご存じの方は、TVコマercialをご覧になり、「すごい歴史ですね、優秀な高校ですね」とか、お声をかけてくれ嬉しく思います。

120年の歴史の中には創立から今日まで多くの先生、先輩、更には地元住民の方々など並々ならぬご努力・ご尽力の結果であると感謝の念に堪えません。

さて、令和2年度静岡支部総会は、11月7日(土) 葵区「浮月楼」にて開催しました。開催にあたり世界中がコ

ロナ感染に戸惑う中、どのようにしたら良いか考えました。主に4点を念頭に置き踏み切りました。第1点はコロナ感染防止ができる環境・会場であること。2点目は120周年の節目。3点目は30余年継続してきたこと。4点目は、「長居しない事」に。仮に規模が縮小でもやむを得ない事としました。結果15名弱の参加でありました。

支部会での会話は、出身地の自慢、あの同級生は今?あの先輩・後輩?等々楽しい時間を持つことができました。

支部の今後5年、10年間で考えたとき、誰が運営していくのか?(支部役員全員71歳超) 問いかけ、運営を思い切つて変えました。限りなく継続をして行く為。

今後も気軽に会話ができる『場づくり』を、そして『母校愛』を心にと思い『つなぐ』。150周年、200周年と。その心は「至誠真剣」。



関東支部

幹事 増田 剛(高35)

新型コロナウイルスの影響で外出ができず、イベントが中止になり、日本全体が非常に暗い気分になっていた2020年5月、30・40代関東支部メンバーから出た画期的なアイデアが「関東支部オンライン同窓会トライアル」でした。

画像を見ていただくとわかるとおり、「オンライン同窓会」とは、インターネットを使ってTV会議のような形で同窓会を行います。7月5日に実施した時点では、「日本初」「世界初」の試みだったと思います。



急なイベントだったにもかかわらず、参加者は30名。牧之原市役所からは杉本基久雄市長、木下勝朗同窓会長をはじめとする本部役員の皆様がパソコンで「遠隔」参加してくれました。



「役に立って楽しい会にしよう」と30代関東支部メンバーが考えた企画の目玉は二つ。一つは、旧片浜小でマキノハラボを運営する福代孝良代表(東大特任准教授(高45)の講演、もう一つは、ボーカリスト吉村樹里さん(高53)のオンラインライブです。クイズ大会も実施。榛高の近くのお店「かわもり」のラーメンの値段、榛高校歌の歌詞を漢字で書くこと、など奇問難問を出して盛り上がりました。また、オンライン会議システムでは、5人程度の「小グループ」化が可能でしたので、「中学校」別の多世代交流会も試行しました。

オンライン同窓会のメリットは多いと思います。例えば、距離のバリアがなく、交通費がゼロ。会場費も不要。なかでも、最大のメリットは「育児や

介護をされている方でも家に居ながら参加できる」(子育て中の母親の声)ことです。

今回はトライアルでしたが、今後はより多くの皆さんが気軽に参加していただけるように企画し、ご案内いたします。

会員からのおたより

不戦の誓い

静岡支部 藤浪 俊夫(中45)

榛原高校創立120周年記念おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。母校の歴史をふり返りながら、わが青春の一駒を思い出すと、旧制榛原中学入学時は、太平洋戦争の真最中。「二死報国」国に殉ずるを潔しとする軍国少年として育った。三年生になったばかりの五月、学徒勤労動員で日本鋼管清水造船所へ。空襲で寮に焼夷弾直撃全焼。当時は日本いや世界中が悲惨な目に遭遇した。戦争は人を鬼畜に変える。決して戦争はしてはならない。死と隣り合わせの軍国少年も当年九十一歳。平和なればこそとしみじみ感謝している。戦争体験者が少なくなっている今日、残っている者の義務として叫ばなければならないと思っている。「不戦の誓い」を次世代へと語り継ぎたい。人間の英知を信じて。

懐古

十有餘歳数^ト青春^ヲ
時^ニ戦火^{ヒテ}覆^レ国家危^シ
抱^{キテ}希望^ヲ敵^{タテ}榛^ノ中^ノ門^ノ
投^{シテ}筆^ヲ参^ル学^徒動^員

一詩を吟じて往時を偲ぶ。
かかる時代の再び来ざらんことを念じつつ...

令和二年八月十五日記 (戦後75年の記念日)

榛原高校同窓会関東支部 オンライン同窓会	
本日の次第	
1 開会の挨拶	6 ルームに分かれて『フリー
2 運営自己紹介	7 卒業生による余興
3 主催者挨拶・乾杯 (本杉関東支部長)	(ボーカリスト 吉村 樹里 様)
4 来賓挨拶(杉本牧之原市長)	プレゼントクイズ part2
5 記念講演会 マキノハラボ代表・東京大学准教授 福代 孝良 様	8 ルームに分かれて『フリー
	9 ふるさとPRタイム
	10 閉会の挨拶 (下村副支部長)
	プレゼントクイズ part1

躍動する榛高生

(部活動報告)

●野球部

顧問 吉村敏博



野球部は、3年生5名、2年生15名、1年生8名、マネージャー3年生1名、2年生3名、合計32名が所属しています。新型コロナウイルス感染拡大のため、昨年度2月から3月末と今年度4月から5月末の2度にわたる部活動休止。春季中部地区大会の代表を決める地方大会も中止になりました。部活動休止期間は、自宅での自主練習を中心に行いました。SNSを利用して各々の練習メニューを確認したり、トレーニングや練習方法の

動画を部員で共有するなど、個人のスキルアップを目指しました。

6月から部活動が再開されました。コロナウイルスの感染リスクを避けながらの活動となりましたが、野球がでける喜びを感じ、部員が一致団結して、7月に開催された「2020年夏季静岡県高校野球大会」に向けて練習に励みました。1回戦は焼津球場で藤枝東高校と対戦し、終盤まで1点を争うシリーズゲームでしたが惜しくも1点差で敗退してしまいました。3年生にとって、練習の成果を発揮し真剣勝負の試合ができる大会が開催され本当に嬉しかったです。敗れましたが全力で最後まで諦めずに戦ったことは、貴重な財産となったと思います。



新チームで臨んだ秋季中部地区大会は、清水東高校と対戦し、自分達の力を発揮できず1回戦で敗退し、実力不足を

痛感しました。それからは、課題克服のためにミーティングの時間を積極的に取り入れ、練習試合や練習で改善・修正してきました。少しずつですが個人的にもチームとしても進歩してきました。今後は、さらに体力面・技術面の強化を図り、春季大会、夏の選手権大会で目標を達成したいと思います。

榛原高校は今年、120周年を迎え、野球部も同等の歴史と伝統があります。今まで多くの先輩方、同窓生や地域の方々からも応援していただいています。これからも皆さんに元気や希望を届けられる野球部として、そして悲願の甲子園出場を目指して頑張っていきたいと思えます。

●女子バレーボール部

顧問 杉本眞洋

現在女子バレーボール部は2年生2名、1年生7名の計9名で日々活動をしています。

新チームのチームスローガンは、「厳格結果」に決まりました。このスローガンには、「時には楽しく、時には厳しく」という意味が込められています。日々の練習や学校生活において『楽しむ』ことも大切です。しかし、楽しいだけではいけません。時には心を鬼にし、お互いに正面からぶつかり合うことも必要です。そうすることでお互いに成長することができ、厳しく辛い経験をすることで、より一層楽しみを感じるこ

とができると思います。自分たちの目標を達成するためにも、本気で苦楽を共にできる関係性を作り上げていってほしいです。



また、チームの達成目標は、「中部地区ベスト4、県大会ベスト8」です。この目標を達成するまでの道のりは決して平坦ではありません。しかし、このチームなら成し遂げられる、そう信じています。夏休みには猛暑の中、走り込みや基礎練習を行い、個人の技術を高めると同時に、毎週土日には遠征や練習試合を行いチーム力も高めてきました。夏休みを経て、一回りも二回りも、技術面そして精神面でも成長できたように感じます。9月に行われた中部選手権、11月に行われた全日本選手権静岡岡県予選では満足のいく結果にはならなかったものの、個人として、そしてチームとしても確実にレベルアップをしていること、格上相手でも十分戦えることを選手たちが証明してく

れました。選手たちも結果をしっかりと受け止め、自分たちの課題を見つけるとともに、自分たちの可能性にも気づいてくれたと思います。

1月には新人戦があり、その次の公式戦は5月の高校総体になります。自分たちの目標を達成するために、「厳結楽」というチームスローガンを胸に、日々全員で切磋琢磨していき、本当の意味の楽しさを味わえるよう、目標達成まで駆け抜けていきます。また地域から愛される、応援されるチームになれるよう精進しますので、これからも温かく見守っていただければと思います。

●科学部

顧問 松下保男



全国的な流れとして高校生の科学探究活動が推進され、ここ10年ほどで研究発表の場が数倍に広がっています。

科学研究活動はそのまま大学推薦入試につながるため、特に進学校での探究活動が活発になっています。

現在、棒高科学部では研究テーマを定めて、探求的な研究活動を始めています。

1年生のグループは光合成色素の蛍光現象に着目して、波長による蛍光の違いについて測定実験を行っています。計測装置そのものが学校にはありませんので、装置の製作から取り組んでいます。光を波長(色)ごとに分けて記録する装置を「分光器」といいます。光の干渉を使っているため、三角関数や近似などが必要で、かなり厳しい作業ですが、一つずつ解決して研究を進めています。

10月に開催された生徒理科研究発表会の中部大会に参加しました。例年10チーム程の参加でしたが、今年は18チームの参加があり結果は9位でした。発表ノウハウが継承されていない中経験の乏しい1年生にとって貴重な経験になったと考えています。

2年生のグループは光と種子の発芽について研究しています。あまり研究対象とされていない暗発芽種子に着目していますが、研究方法が確立されていないため、かなり難しいものです。現在、もう少しで暗発芽種子を特定することができるところまで来ています。結果がわからず、暗中模索を繰り返す実験のため、精神的にかなり厳しい研究ですが、頑張って取り組んでいます。

●定時制

◎中部地区定時制通信制生徒生活体験発表会(9月 清水東高校)

優秀賞 ビリネオス ハマナリイ(4)

◎実用英語能力検定 準一級合格 ビリネオス ハマナリイ(4)

◎陸上競技 県大会(11月 草薙陸上競技場)

男子100M 第7位 野中尚輝(1)

第10位 青柳 涼(2)

第3位 福田健慈(2)

第2位 ガバテラルフ ジャスティンララ

第1位 メシオナ ケンジ(1)

第2位 ラモス アルクミシヤン アラナノ(2)

男子総合 第2位

男子フイールド 第2位

◎バドミントン部 県大会(11月 県立静岡中央高校)

第3位 田中健太郎(3) 中村藍羅(3)

第2位 境ゆうか(2) 森本フアニ(2)

◎バスケットボール部(令和2年度創部) 県大会(10月 県立静岡中央高校)

対静岡中央 54対44(敗退)



銀杏並木の变迁

榛原高校の正門前の銀杏並木は、「静岡まちなみ百選」に選定され、県道からの並木入口にその記念碑が置かれている。

この銀杏並木は、1928年（昭和3年）本校の第5代校長として着任した小田原眞先生による勤労教育によって成されたものである。榛原高校創立80周年記念誌を紐解くと、小田原校長は着任早々、校舎内外の整備作業に着手、静波海岸の荒地地開墾や校地整備作業などが行われ、昭和14、15年頃と思われるが、「正門前に長さ120m、幅6mの道路を建設、土は龍眼山より、砂利は住吉海岸から自転車、荷車で全校生徒で運搬、道路の両側には銀杏が植えられた」という記述がある。

銀杏の木は80数年の年月を経て、まさに榛原高校のシンボルとして、榛高生はもちろん、地域の人々の憩いの場であり、思い出深い道路となっている。

ところが、ここ2、3年の間に次々と枯れ始め、毎年夏には緑の葉を茂らせ、秋には黄色く色付いた見事な並木道路の面影はなくなった。

榛原高校が創設された頃は荒地地だったが、長い年月の間に並木の両側に家々が立ち並び、住民にとつては車の出入りや、多量の落ち葉に不便を詫つようになつてきた。また、根の周りがアスファルトで固められていることから樹勢が衰えたり、さらに家の土台や水道管を痛めている。

道路を管理している牧之原市から「住民の安全・安心のために整備したい」との申し出があり、住民の出入りに支障のある木と、すでに枯れ始めている木を伐採した。切り倒された木の中には、自然枯死ではな

く不自然な枯れ方をしたものと思われるものもあったが、市から相談を受けた同窓会としては、住民生活を最優先にして市の申し出を承認した。

すでに14本を伐採したが、近年、地球温暖化による世界的な異常気象は、各地に甚大な風水害をもたらすことを考えると、樹勢が衰え始めた樹木の管理をどのようにしていくのが良いのか、市や住民と協議しながら少しでも並木を残していきたいものである。

榛原高校に植樹されている木々には、榛原高校史に欠かせない一つのエピソードがある。

1941年（昭和16年）、長野県諏訪市出身の原雅幸先生が新任教師として本校に赴任したが、着任間もなく軍隊の召集を受け、入隊する前に「戦死しても公孫樹（いちよう）の木は残る」と、小田原校長に申し出て50本の苗木を生徒と一緒に校庭に植えた。先生が植えたと思われる銀杏の木は、校舎北側の自転車置き場に大木となっている。

先生は先の太平洋戦争でインドネシア方面に出征したが無事復員し、榛原高校での教鞭を懇願されたが、ふるさとの諏訪市の高校教師となった。退職してからは諏訪市立博物館館長として勤めた。下諏訪大社の前本も展示されている。2013年（平成25年）11月、「死ぬ前にもう一度植えた樹木を見たい」と言つて娘さんと来校し、大きくなった銀杏の木を抱きかかえて懐かしんだ。その原先生も2015年（平成27年）3月に96才で亡くなられた。



2017年頃の並木



2020年現在の並木



令和2年度大学入試 合格大学等一覧 進路指導課 (合格者数)

【国公立大学】 延べ数 59

北見工大(3) 北教大釧路校(1) 室蘭工大(3) 弘前大(1) 秋田大(2) 群馬大(1) 上越教育大(2)
山梨大(1) 信州大(2) 静岡大(7) 愛知教育大(1) 鳥取大(1) 山口大(1) 秋田県立大(2) 前橋工科大(1)
群馬健康科学大(1) 高崎経大(2) 神奈川保福大(2) 富山県立大(1) 公立小松大(2) 山梨県立大(1)
都留文科大(2) 長野大(1) 諏訪東京理大(2) 静岡文化芸大(2) 静岡県立大(9) 福知山公立大(1)
島根県立大(1) 下関市立大(1) 福岡県立大(1) 名桜大(1)

【主な私立大学】 延べ数 382

千神田外語大(1) 中央学院大(1) 麗澤大(1) 桜美林大(4) 国土館大(1) 駒澤大(4) 芝浦工大(1)
順天堂大(3) 専修大(3) 大東文化大(1) 拓殖大(1) 玉川大(2) 中央大(1) 帝京大(4) 東海大(5)
東京医大(1) 東京家政大(2) 東京経大(1) 東京工科大(4) 東京電機大(1) 東京農大(1) 東洋大(1)
日本大(12) 法政大(2) 武蔵野大(2) 明星大(6) 神奈川大(11)
関東学院大(4) フェリス女大(1) 山梨学院大(1)
岐阜聖徳学園大(1) 中部学院大(2) 静岡理工科大(10)
聖隷クリスト大(13) 常葉大(15) 静岡英和学院大(1)
浜松学院大(1) 静岡福祉大(1) 愛知大(5) 愛知学院大(9)
愛知工業大(1) 中京大(6) 中部大(6) 名古屋外大(12)
名古屋学院大(5) 名城大(4) 京都産業大(1) 立命館大(3)
龍谷大(2) 関西大(1) 関西外大(2) 関西学院大(1)
近畿大(2) 神戸学院大(1) 立命館アジア大(1)

校種別延べ合格者数(現役)

区分	男	女	計
国公立大学	36	23	59
私立大学	214	168	382
短大・専修学校	11	37	48
就職	1	1	2
合計	262	229	491

事務局だより

例年ですと、会報は、11月初旬に発行していますが、本46号は百二十周年記念特集号として、記念事業の概要や記念講演会の内容等、本年度中に報告したいということで、1月となりました。

また、表紙も例年とは趣を変え、創立百二十周年を強調しました。

同窓会として、今後もより一層、榛原高校の支援に努めたいと思います。同窓生の皆様のご支援をお願いいたします。

編集後記

昨年の総会の感動を静かに胸の内に秘めつつ、皆さま、このコロナ禍の中、いかがお過ごしですか？榛原高校の歴史は脈々と受け継がれ11月14日、120年の歴史を刻みました。その一点に私たちのあの日々が存在していたのだと思うと感慨深いものがあります。

牧之原台地を背に、眼下には静波の海、右手には御前崎の海、覚えていきますか？私たちの原風景でしょうか。

記念式では、あの懐かしい体育館で、あの懐かしい校歌が流れ、しみじみと青春の日々を思い起こしました。懐かしいクラスメイトは今どうしているのでしょうか。それぞれの道を迷うことなく歩いていくのでしょうか。迷いながらも精一杯の人生を送っているのでしょうか。

こんな時代がやってくるとは誰もが予期しなかったでしょう。この世ではもう会うこともないかもしれない。残り少なくなつた自分の人生を思うと、そんな弱気な思いにもかられます。それでも、それでもです。たとえどんな時代に巡り合ったとしても勇気をふり絞って残された日々を歩こうと思います。来年度の総会こそは、またあの再会の喜びに溢れ、高らかに歌う校歌を耳にしたいと願うばかりです。必ずまたお会いしましょう!! (麻)



120周年記念誌

躍動する榛高生



理数科2年生情報科学講座



イングリッシュキャンプ報告会（1年生）



ライブラリーコンサート



文化発表会（合唱部）



登校風景



1年生演劇教室（移動中の昼食風景）



文化発表会（書道部）



イングリッシュキャンプ（3年生）

榛原高校同窓会報 46号

2021年1月

◇発行: 木下 勝朗 ◇編集: 広報委員会 石神 齊 辻 和巳 松田麻美子 平泉寿江 題字: 大石千世

〒421-0422 静岡県牧之原市静波850 電話・FAX 0548-22-7755
ホームページ <http://www.haibara-ob.jp> E-mail: haibara-ob@mail.wbs.ne.jp